

自民党千葉第六選挙区支部長
元経済産業副大臣／元衆議院総務委員長

ひろみち通信

2010. 秋季臨時号



討議資料

～尖閣諸島周辺衝突事故における～
これからの日本の対応と対策

<http://www.hiromichi21.com>

主権国家としての対応を！

渡辺博道

尖閣諸島周辺で起きた中国籍漁船と海上保安庁の警備船衝突事件の結末に、日本人である皆様の心中を慮る（おもんばかり）と、現職議員として国会の場で私自身の思いと行動を示せない苛立と、中国の時代錯誤の理不尽さに対して、与党である民主党及び菅直人内閣の腰の引けた無能さに腹立たしく思う渡辺ひろみちです。

尖閣諸島は日本固有の領土です

尖閣諸島は日本固有の領土である事は、国際的常識となっており貴重な国土です。尖閣諸島に関する領土問題など存在していませんでした。中国さえ尖閣諸島は沖縄に帰属している事を認めた書簡を日本政府に発行した感謝状に記載しています。中国が、尖閣諸島の領有権を主張した理由と経緯を説明しますと、一九七十年頃実施された海洋調査により、大量な石油が地下資源として期待できるといふ報告が発表され、まず台湾が尖閣諸島の領有権を主張すると、中国は台湾の主張を支持し、次に台湾は中国から独立していないとの理由で尖閣諸島は中国の領土であるという滅茶苦茶な三段論法を繰り出し、軍艦や漁船を領海侵犯させる暴虐無人の振る舞いを堂々として来る始末です。

アジアの秩序は日本の対応次第

中国は、他国の主権をどの様に考えているのでしょうか。まさか、日本の事もチベットと同じ様に捉えて時代錯誤の中華思想を大上段に振りかざして来る

積もりなのでしょいか。国際的常識から逸脱した外交や外圧（横暴と言っても過言ではない）に国の威信を掛けて抗議し、阻止しなければ日本の未来とアジアの秩序を堅持できないでしょう。政治家としても一国民として危惧しています。

この問題を国際問題ではなく、日常の問題として単純に考えてみましょう。皆様の自宅や敷地内に他人が侵入して、自分の家や土地だと主張し、仲裁役の警察官に暴力を振るった場合、即座に公務執行妨害ならび不法侵入の罪で裁かれます。裁かれなければ社会生活など成り立ちません。

今回の問題も、同じだと私は考えます。中国は他国の領海を侵犯し、他人に暴力を振るった自国民の釈放を国家を挙げて要請するどころか、逮捕そのものを不法逮捕だと抗議して来ました。要求が通らないと見るや、制裁という大義名分で正当化する脅迫行為を繰り返す、犯人釈放と同時に、国家謝罪と賠償を要求しています。これでは、泥棒にも三分の理どころではありません。

国民の生命と財産、国土を死守する事こそ国家の使命

日本政府がこれらの行動を容認（黙認）してしまつたら、尖閣諸島は中国の領土として日本も認めたと主張して、侵犯を繰り返すだけに収まらずに軍艦を配し、日本の漁船や監視船を寄せ付けず雪崩式に尖閣諸島は中国の領土となってしまう。

中国の横暴に困っているチベットやフィリピン、ベトナムやマレーシアなどの国々が、日本の対応に期待していたに違いありません。アジアの指導的立場でアジアの発展を牽引して来た自信と自負を持って中国に対して毅然たる姿勢こそがアジアに於ける日本の役割だと確信しています。

自民党全国支部長会議で積極的な意見交換を

参議院選挙の総括をしたうえで、次期総選挙に勝利するための「衆議院選挙区支部長との懇談会」が9月13日に自民党本部で開かれ、千葉県第六選挙区支部長として出席して参りました。今会議には前衆議院議員（浪人中）の支部長五十名が出席し、自民党の新執行部との意見交換が行われた他、先に決定した緊急経済危機対策の説明を受けました。

冒頭、谷垣総裁は「地域に根差し、草の根の声を吸い上げる力はまだ自民党が一番であり、次期の総選挙・統一地方選挙に勝利するため、新しい党の体制をつくり、臨時国会に向け準備を進める」との決意を示しました。また、政権公約に関しても「自民党が目指す方向性を国民に理解してもらう」と述べ、社会保障などについての中長期的な道筋を明らかにしてゆく必要性を強調しました。

新しく就任した石原伸晃幹事長は、民主党政権について「無責任な政党で、国は劣化している」と批判しました。次期総選挙で政権交代を果たすため、選挙区支部長への支援を様々な形で支援してゆく方針を併せて表明しました。

意見交換の場では、それぞれの選挙支部長から積極的な党体質の改善策や要望が出されました。「民主党に対する優位性を示すために数字を明記した立案をし、発進力を強めて欲しい」／「モノづくり産業を育成するためには、原子力産業・鉄道・航空・宇宙などに集中した投資が必要」／「国家ビジョンを掲げないと個別の景気対策に説得力がない」／「公務員改革への積極的な姿勢を広報としてアピールすべき」／広報版に党の政策を張っては如何か」／「国会対策において、愚かな喧嘩はすべきではない」などの意見や「都市部への選挙対策の取組み強化」／「都道府県連の組織改革」の要望もありました。

今まで勝ち組だった自民党が、民主党に政権を奪われ負け組に身を投じた事で、私たち議員バッチを外した前職議員への支援強化の重要性を再認識しており、各支部長や国民の党運営や国政への意見や要望、アイデアなど吸い上げる「新しい自民党」としてスタートを切ったと実感できる会議でした。

現職議員ではありませんが、バッチの有無に囚われず皆さんの声をドンドン国政に反映させるよう頑張ります。



経済産業省主催 産業財産権制度 125 周年記念式典

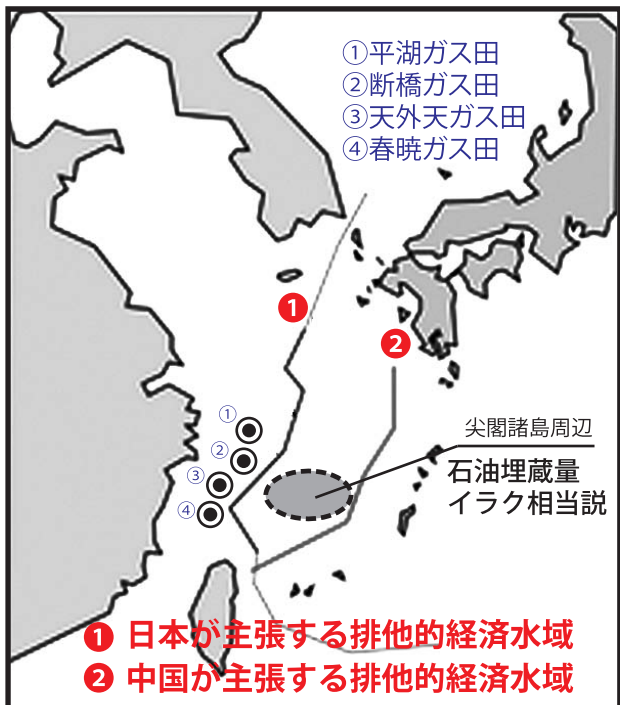
平成22年10月18日（月）に経済産業省主催の「産業財産権制度125周年記念式典」が帝国ホテルにて開催され、歴代の経済産業副大臣として出席させて頂きました。式典には、天皇陛下皇后陛下もご臨席され、お言葉を頂戴致しました。天皇陛下の財産権制度（特許制度）に関するご見識は大変なもので、明治18年に専売特許条例として交付されてから現在に至るまでの歴史と経緯、模倣が横行している国際社会の中で日本技術の保護と育成、知的財産権の保護と育成に非常に合理的かつ効率的な制度の重要性を述べられたお姿に感動させて頂きました。陛下のお話しによると、我が国第1号の特許は東京の堀田瑞松氏による発明であり、その発明とは日本古来の漆と柿渋と鉄粉を素材とした船舶の錆び止め塗料と塗布方法に対する特許であったそうです。この発明はその後の、日本の造船業発展に大きく貢献したとのご内容も含まれており、陛下自らが個人名や特許内容に至るまで詳細にお話しされた造詣の深さに驚かされました。

（当日の写真撮影は禁止事項となっており、写真を掲載できずに残念です。）

尖閣諸島領有権問題の経緯

一八八五年から九十五年にかけて、日本政府は尖閣諸島の領有状況を慎重に調査した結果、世界情勢を考慮しつつも、どの国にも属していない事を確認した上で、日清戦争中の一八九五年一月一四日の閣議で沖縄県に編入決定し、現在に至るまで沖縄県石垣市に属しています。

国際的にも日本の領土として認められ、日本国民の入植も行われました。アホウドリの羽毛の採取や海鳥の剥製の製作及び鯉節の製造が盛んに行われていました。鯉節の南洋諸国からの輸入に価格競争で敗れ、工場閉鎖とともに無人島となります。(一九四十年) 無人島となつてからも日本の実効支配は継続していましたが、一時期、第二次世界大戦後連合国(米国)の管理下にありましたが、一九七二年に沖縄の一部として日本に返還されました。



島は開拓者の子孫が所有する民有地であり、現在、日本政府が賃借契約を締結しています。

政府レベルでは中国・台湾共に話し合いでの問題解決を主張していますが、実際には事前通報する取り決めが日中両国間で締結されている排他的経済水域内はおろか、尖閣諸島周辺の日本の領海内で中国人民解放軍の軍艦による海洋調査が繰り返されたり、台湾及び香港も含めた中国人活動家の領海侵犯を伴った接近が繰り返されています。この様な暴挙に対して日本政府は抗議していますが、中国側はそれらを一切無視している中で、今回の衝突事故も一連の事件として捉える事ができます。

最近では、中国政府に近い研究機関は、沖縄県は終戦によって日本の支配から脱しているが未だに帰属先の策定が行われていないと主張を始めているとして、これらを捉えて将来的な沖縄侵攻の布石として見る必要性があるという説すら耳にします。

中国との領海問題を抱える国は、尖閣諸島以外にも東シナ海排他的経済水域際における天然ガス田開発問題などの問題が山積している日本以外にもベトナム、マレーシア、フィリピン、台湾などアジア全体の問題となっており、アジアの秩序と安全を維持するためにも対中国外交のビジョンをキツチリと見据えた対策と、アジア諸国との連携体制を強固なものにして国際社会を論争の場として、中国の暴走を食い止められる重要なターニングポイントとしなければなりません。(いずれ時を見てでは遅い!)

ひろみち流対応と対策

① 中国に依存しない経済対策

安心安全の農産物生産の奨励
希少金属の代替品・技術開発の奨励
リサイクルの技術促進
先端技術・環境浄化技術開発の奨励

国家事業としての環境整備

② 外圧に負けない防衛対策

大型巡視船の増強
海上保安庁と海上自衛隊の密な連携体制強化
尖閣諸島の有人化
海洋資源調査と環境保全



財団法人日本さくらの会交流会に出席

国花である桜を通して国際交流の輪を広げ、世界平和に貢献している「財団法人日本さくらの会」の理事を務める関係から、10月6日に日比谷公園内松本楼にて開催されました今年度の米国ハワイ州のミス桜の方々とハワイ州日系青年会議所役員の方々を招いた交流会に出席して参りました。

日本代表の桜の女王も出席し、桜を愛する多くの方々が集まり、私と同じ自民党所属の相沢議員の乾杯で交流会は始まり、フラダンスや彼女達が持参してくれたお土産のマカデミア・チョコレートに常夏の国ハワイを感じ、沖縄の基地問題や尖閣諸島周辺問題などうまく行かない政府間外交が続くなか、日米関係者の国を超えた笑顔や笑い声に接し、外交のあり方や方法が見えて来るようでした。



～渡辺ひろみちプロフィール～

昭和 25 年 3 月 松戸市生まれ

松戸市立中部小学校、第一中学校、千葉県立東葛飾高校、早稲田大学法学部卒業
明治大学大学院修士科修了

平成 08 年 千葉県県議会議員選挙当選

平成 09 年 衆議院選挙初当選
*以降四期連続当選

平成 21 年 衆議院選挙において惜敗

〈職歴〉

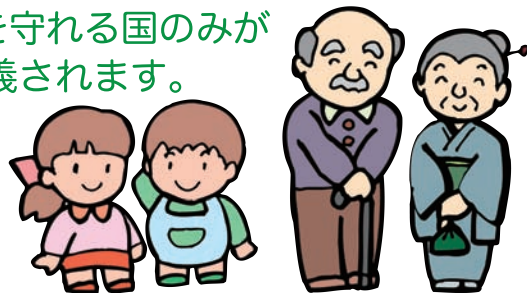
平成 13 年 内閣府大臣政務官

平成 17 年 自民党統括副幹事長

平成 18 年 経済産業副大臣

平成 19 年 衆議院総務委員長

国民の生命と財産を守る国のみが
主権国家と定義されます。



防衛は国家間だけの問題ではありません。今、真剣に考える時！
ご意見をお寄せ下さい。 Fax でお願ひ致します。

FAX 番号 **047-369-3939**

素敵な日本を一緒に創りましょう！
ボランティアスタッフ募集中です
渡辺ひろみち事務所

千葉県松戸市松戸新田 373 ガーデンビレッジ 111

それで良いのか民主党議員たち！ / 次々発覚不正疑惑



不正疑惑が発覚した
生方幸夫衆議院議員

在日米軍基地問題や尖閣諸島海難事故問題、中国各地で繰り広がる反日運動。国内に目を移せば、急速化する円高傾向が拍車をかける深刻化した不景気に対し、具体的な策も出さずに党内権力抗争に精を出す民主党。野党時代あれ程金権政治を糾弾し続けた民主党の議員たちも元代表であり、政権与党時代となつての初代幹事長という権力者である小沢一郎議員の一連の問題には一様に口をつぐむ中、当千葉県第六選挙区内でも、生方幸夫議員の公職選挙法に抵触する可能性を含んだ選挙運動費用収支報告書の虚偽記載疑惑報道が読売新聞に掲載されました。

記事の内容は、費用計上可能な 23 名の運動員枠の中に、報酬を受け取っていない純粋にボランティアとして選挙運動に参加した運動員 5 名分の架空領収書を作成し、収支報告書に記載し、千葉県選挙管理委員会に提出したというもの。金権政治の撲滅を訴え続けた民主党議員達の倫理感は、何なのだろうか？民主党の超大物議員以外にも不正疑惑の波紋が広がるのだろうか？生方議員の答弁の内容は「秘書に任せた事柄であり、自分は一切わからない。間違いがあれば修正する。」との小沢議員のそれと異口同音の内容が記事として掲載されていました。皆さん、このような民主党議員の言動をいかがお考えですか？